

滋賀県琵琶湖地域における保全計画に基づく活動状況等の評価
(令和5年度第5回世界農業遺産等専門家会議)

1 評価

貴地域では、地域の農業遺産の保全活動が概ね適切に行われていることが確認できたため、今後も引き続き活動を維持されたい。

2 専門家会議による助言事項

更なる保全・活用に向け、以下の助言事項を参考として今後の保全活動に取り組むことが望ましい。

- (1) 魚のゆりかご水田の実践圃場の減少や漁獲量の減少、ヨシ帯の維持管理の様々な課題は、湖と水田のつながりを守り継ぐ観点で、個々の対策にとどまらず、統合的に検討し取組を進めることが必要。
- (2) ホンモロコなどの湖魚の推定資源量が回復しているにもかかわらず、それらを利用する食文化の衰退が漁獲量の減少の要因にもなっていることから、湖魚の需要を開拓することが必要。
- (3) 教育やツーリズム等を通じて地域内外の方が琵琶湖システムを体験し、身近に感じることができる機会をつくることが関係人口増加につながることから、様々な主体が参画できるよう、間口の広い参加のあり方を検討されたい。
- (4) 生物の生息環境としてのヨシ群落の機能を持続可能な形で保全していくためには、現在未利用となっている刈り取ったヨシを地域資源として活用する方法を模索するとともに、巨木化したヤナギの伐採や火入れ等の手法を総合的に組み合わせながら適切に管理を行うことが重要である。

(以上)